

学校教育目標

よく考えて実行する杉本小の子
健康でたくましい杉本小の子
思いやりのある杉本小の子



海老名市立杉本小学校



学 校 便 り

令和7年9月22日

校長 奥泉 憲

目久尻川 清掃 4年

9月18日(木)の1、2時間目に、4年生が総合学習で目久尻川清掃活動をしました。「目久尻川の環境を守る会」と保護者ボランティアの方に応援いただき、たくさんのゴミを拾うことができました。

「こんなゴミまであるとは!」と驚きのゴミもありました。また、川に住むたくさんの生き物と出会うことができました。生き物大好きな4年生は、カニや魚に大興奮! 地域の方々のおかげで、貴重な経験をさせていただきました。今後の学習や杉本での生活に生かしていきます。



インクルの視点② 『二刀流の伴走者』

世界陸上選手権東京大会では、世界のトップアスリートの活躍に胸が躍られました。私自身、昨年、パリで開かれたパラリンピックで印象的な場面があります。陸上女子100メートル(視覚障がいT11)決勝。ブラジルのジェルザ・ジェベルドスサントス選手が優勝したレースです。彼女の伴走者は、ガブリエル・ドスサントス選手。私が興味深かったのは、ガブリエル選手がパリ五輪のブラジル陸上男子400メートルリレーのメンバーだったことです。ガブリエル選手は五輪後、すぐにジェルザ選手の練習に合流。準決勝でも11秒80の世界新記録の達成に貢献しています。

一流の競技者としての現役選手が、自分の練習を継続しながら、パラスポーツの伴奏者を続けていくことは、きっと容易なことではないはずです。パラリンピックの陸上100メートル(視覚障がいT11)という競技は、競技者本人と伴奏者の協働作業の中で、レース全体を通して先行する、逃げる、追い込むといった様々な駆け引きが10秒余りに凝縮されていると言われています。この種目の奥深さを自分自身の肌で感じ取り、レース中のあらゆる困難を2人の力で克服してきたという体験が、ガブリエル・ドスサントス選手を二刀流の選手として挑み続けさせているのかもしれません。

子どもたちが育っていくであろうこれからの社会では、障がいの有無にかかわらず、時に誰もが伴走者を必要とし、また誰もが伴走者として役割を期待されることになる、私は考えています。将来、子どもたちにも、伴走者と共に映し出す美しい協調と調和の世界の担い手になってほしいと願っています。

学校長 奥泉 憲